



## 《卓話》

### 「ロータリーを実践し、

### みんなに豊かな人生を」

2013-2014 国際ロータリー第2780地区

地区国際奉仕委員長 成田 清様 (平塚西RC)



今年のR.I.会長ロン・ディー・バートンさんは、「今年度、どのような奉仕活動を行なおうと、一番豊かになるのは皆様自身の人生だ」と述べています。私がロータリーに入会したのは1994年4月なので、今年でやっと20年です。入会して5~6年経った頃、我がクラブではネパールに学校を建てたら、という遠大な話が持ち上がりました。私は聞いた瞬間「もしかしたらネパールに行く事ができるかも知れない」という期待でした。私は高校時代、山に憧れ山岳部に入っており、二年生の時後立山連峰縦走をして、山の魅力にとりつかれて以来しばらく山ではなく、海のレジャーを楽しんでおりましたが、クラブでネパールの話が出てから、何となくそわそわして来る思いでした。時折りしもロータリーで、ただ昼食食べに集まっているのも、何となくマンネリ感が漂う頃でした。今思えば同期に入会した人達も、何人かは辞めて行きました。



2000年の5月に、最初にネパールに行ったのは3人でした。4泊5日の短い日程の強行軍でしたが、行く前のかすかな可能性から、大きく話が前進した事が記憶に残っています。カトマンドゥに着いたその晩に訪れた3つのロータリークラブの内の1つが、パタン西R.C.でした。私達が訪れた夕方6時、何の前触れもなく突然押しかけた私達でしたが、私達の目的をお話すると、ただちに大賛成して戴き、大歓迎を受け、翌日歓迎パーティーをやってくれるとの事でした。この時つくづく感じたのは、ロータリーの輪の大きさでし

た。ロータリーは世界約200ヶ国123万の大組織だという事。それぞれのロータリアンが、それぞれの国で6つの奉仕活動指針に向かって活動していると言う事です。突然何の前触れもなく訪れた我々を、旧知の友人のように暖かく迎えてくれたロータリアンの人達、そして学校建設地迄、我々と一緒に約4時間もかかる道のりを同行して下さった人達、その後学校が完成する迄6回も現場を訪れる毎に、我々を歓迎し続けてくれたパタン西R.C.の人達、我々のメールを受けると現場まで足を運んでくれ、建築途中の学校の姿をメール写真で届けてくれたのも、ロータリアンの人々でした。国際奉仕活動は、現地と日本というぐあい、現地とのコミュニケーションが不可欠ですが、今回のプロジェクトでは元米山奨学生が大活躍してくれました。彼も行く毎に一緒に同行してくれたので、現地の人達とのコミュニケーションも大変スムーズに運びました。何と言っても大きな喜びだったのは、昨年聞かされた報告でした。卒業生4人が、大学入学資格試験に合格した事です。

このプロジェクトの当初、我々が皆と話していた「この学校の卒業生の内の一人でも、米山奨学生として日本に来てくれたら」という夢でしたが、真に夢が現実としてかなえられるかもしれないなくなったという事。私がこの計画に携わって14年経ちました。現在約200名の生徒が通う立派な学校になり、当初7年間は学校の運営迄も援助しましたが、その後は自主運営で学校経営がなされています。このプロジェクトを通じて、マッチンググラントの申請をしたり、日本の外務省を訪ねたり、カトマンドゥにある日本大使館にも毎々伺いました。今から思うと楽しい思い出として、呼び返ってきます。どうか1人でも多くのロータリアンの人々に、ロータリーを実践し、人生に彩りを添えて戴きたいと思います。

oo

世の中、団塊世代の話題が下火になった矢先、わが厚木中クラブは空前の還暦ブーム。4月の笹生誠会員、8月の三平治憲会員、9月の山口光正会員、1月に笹生正人会員、2月には城所敏之会員と小澤俊通会員。会員44人のうちの6人は約14パーセント。それぞれ様々かなりの比重です。なお祝いのされ方で、皆さんオトナの仲間入り。お祝い申し上げます。

そんな御目出度い還暦目前の年の瀬にお母様、そしてまさに還暦の前日にお父様が相次いで旅立たれた小澤俊通会員の心の中は想像するだけでも痛いです。きっとお父様とお母様は仲良しのご夫婦だったにちがいない、と訃報を聞いた瞬間、そう思いました。心からご冥福をお祈り申し上げます。つい先日は三平實様の7回忌。3月10日は和田稔様の一周忌。光陰矢の如し。和田家庭先は今、和田さん丹精の梅の花が咲いています。(や)